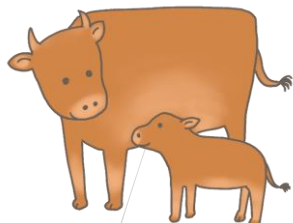


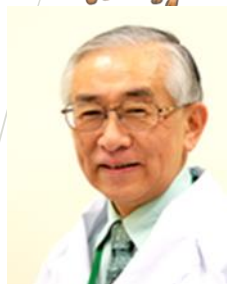
東都文京 だより

2021年1月1日 第24号

発行：医療法人社団大坪会
東都文京病院広報委員会
〒113-0034
東京都文京区湯島3-5-7
TEL: 03-3831-2181



—2021年年頭のご挨拶—



新年あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が拡大を続ける中で、年末・年始の行事を自粛する静かなお正月を迎えることになりました。累積感染者数は(12/27現在)、世界全体で8,022万人を超え、米国1,891万人、日本21万人、死亡者数(死亡率)は(12/27現在)、世界全体で175万人(2.18%)、米国33万人(1.75%)、日本3,233人(1.47%)となっており、終息の気配は見られません。12月に欧米でワクチン接種が開始されましたが、世界全体にいきわたるには1年以上かかるものと思われます。現況のCOVID-19感染の拡大を抑え、医療の崩壊を防ぎ、死亡者の増加を抑えるには、手洗い、手指・環境の消毒、マスク着用、「3蜜」環境の回避など日常生活における個々人の努力の継続に加えて、人の交流・接触を社会的に制限する行政のさらに積極的な対策が求められます。

日本では昨年9月16日に菅内閣が発足、米国では1月20日にバイデン氏が新大統領に就任いたします。日米ともに新体制でのCOVID-19感染拡大防止をはじめとする様々な課題への精力的取り組みが期待されます。

さて、東都文京病院は東京都の要請に応じて、発熱外来、PCR検査、COVID-19(中等症以下)患者さんの入院受け入れなどの体制を継続いたします。1月中に外来設備を一部改修し、発熱外来を強化する方針です。また、6月より中断していた新棟建設計画を再開いたしました。地域医療ニーズの一部である感染症や災害に対応する病院機能を考慮した基本構想を立案してまいります。

さらに、スタッフから感染者を出さないこと、院内感染を起こさないことなどを心掛けながら、できるだけ一般診療を維持して

(裏面に続く)

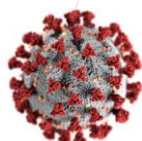
(つづき)

まいります。COVID-19の診療と一般診療において、より質の高い医療・ケアを提供できるように、病院一同さらなる成長と進化を目指して努力してまいります。

本年も地域の皆様のご理解とご支援を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2021年元旦

東都文京病院院長 杉本充弘



新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の検査について

新型コロナウイルスの検査には、大きく分けてPCR検査・抗原検査・抗体検査があります。

この3種類の検査について簡単ではありますが、ご説明いたします。

PCR検査は、昨年一躍話題になった検査法です。PCRとはPolymerase Chain Reaction (ポリメラーゼ連鎖反応)の頭文字の略語で、体内のウイルスの遺伝子を見つけ出す検査です。遺伝子を増幅させるため、判定まで時間がかかりますが感度が70%程度あります。

抗原検査は、体内のウイルス自体を見つける検査で感度はPCR検査より劣りますが、操作が簡便で時間があまりかからないのが特徴です。(インフルエンザの検査が馴染みがあるかもしれません。)

この2つの検査は、「陽性」の場合は診断に用いることのできる検査ですが、「陰性」の場合は“検査した時点では陰性でした”ということであって、現時点も陰性ということを実証するものではありません。

抗体検査は、血液の中の抗体(免疫グロブリン)を調べる検査で、抗体は感染後2週間くらいしてから検出されます。抗体検査が「陽性」の場合は“過去に感染したことがある”ということになりますが、「陰性」の場合は“現在もしくは過去に感染していないことの証明”にはなりません。また、抗体が陽性の場合に再感染しないかどうかは、まだわかっていません。

臨床検査科 木下 弘司

当院では2020年9月14日から
自費での新型コロナウイルスPCR検査を行っております。
詳しくは病院ホームページをご覧ください。
<https://www.tohtobunkyo-hp.com>